

わせる。

四 等覚寺城 とかくじじょう 京都郡荊田町大字山口字等覚寺

等覚寺城跡は、等覚寺松会で有名な白山多賀神社の社地一帯に位置する。

城跡は、旧白川小学校山口分校跡の台地から南にのびた尾根上にあり、城郭遺構と修験道遺構との重複のため、判別がつきにくい状況であるが、土塁がよく残っている。

北側の尾根筋には、五条の堀切で城内と城外が区画されている。最も特徴的なことは、八〇条をこす畝状堅濠群の存在である。

畝状堅濠群は、上下二段、一部三段に構築され、上下の畝状堅濠群は横堀で区切られている。

等覚寺城は、長野氏の戦略的重要拠点であり、長野三郎左衛門助盛（祐盛とも）が城主であった。

長野助盛は、永禄十一年（一五六八）六月二十八日、岩隈城（勝山町岩熊）に毛利方が立て籠もったため、入田丹後入道、城井左馬助、安東三郎らと岩隈城を攻め落としている。

同年九月には、毛利の大軍に攻められ、等覚寺城は落城した。

「九月三日至貫越打廻候、また安藝衆あきしゅう去八月十六日より渡海仕候、又宮尾取、長野城三岡取悉候、同三日酉時セメ候、同四日二小三岡ハ落候、

同五日大三岡落、同夜等覚寺落居候、長野兵部左京ハ被打、其外城内男
女数千人生害候、敵多損候風聞候、三河守ハ豊弼フシゴへ参候……」『宇佐到津
文書』

永禄十一年（一五六八）九月三日貫越で戦が行われた。又毛利勢、去る八月十六日より海を渡り、また、長野城、宮尾城（稗畑山城：小倉南区山本）を攻め取り、三岡城（三ヶ岳城）をことごとく落城させた。

五日夜には、等覚寺城も落城、そのほか、城内の男女数千討たれ、敵方（毛利方）も多くの損害を出したと聞き、長野三河守（三郎左衛門助盛）は豊後へ逃れたとある。

これは、永禄十一年（一五六八）九月の毛利勢による「長野退治」の際のことを記載したものである。

「九月五日、大三岡落城、同夜等覚寺落ち居候、長野兵部左京は打たれ候」との記載から等覚寺城は、永禄十一年には存在し、その後廃城となったと思われる。



図4—7 等覚寺城 (現白山多賀神社)